

北海道浮魚ニュース

平成 14(2002)年度 11 号 (通巻 No.131)

2002 年 7 月 26 日

北海道立水産試験場

ホームページ : http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm

日本海スルメイカ長期漁況予報発表される。

今年の日本海スルメイカ長期漁況予報が発表されましたので、北海道に関連する海域の予報文をお知らせします。

なお、この予報は日本海区水産研究所を中心にして日本海側道府県水試が共同で行った日本海スルメイカ漁場一斉調査の結果に基づいています。

平成 14 年度 日本海スルメイカ長期漁況予報

対象期間：平成 14 年 8 月～12 月

対象海域：日本海

1. 道北・道央海域 (小型いか釣り)

(1) 来遊量：例年より多い

(2) 漁期・漁場：9～10月に好漁

(3) 魚体：例年並からやや小型

道北・道央海域では7～8月が漁期のピークであり、年によっては10月以降に太平洋からオホーツク海経由で来遊する群によって10～11月にもう一つのピークが出来る場合がある。今年の道北・道央海域は、7～8月は例年並の漁況であるが、小型個体の来遊量が多かったことから、これらが漁獲対象となる9月～10月には例年以上の好漁が期待される。しかし、太平洋側での来遊状況は昨年を下回っており、10月以降に太平洋からオホーツク海経由で道北・道央海域に来遊する群は例年より少ないと予想される。魚体は、道北に多く分布していた個体が小型であったことから、漁期の前半を中心に例年並からやや小型になると予想される

2. 道南・津軽海域 (小型いか釣り)

(1) 来遊量：例年並

(2) 漁期・漁場：前半が中心

(3) 魚体：例年並

道南・津軽海域では7月が漁期のピークであり、年によっては太平洋からの来遊群によって10～11月にもう一つの小さなピークが出来る場合がある。これまでのところ、道南・津軽海域では例年並の漁況で経過しており、調査結果も例年通りと考えられることから、今後も例年並の漁況で経過すると予想される。しかし、太平洋での資源状況が昨年をやや下回ることから、漁期は前半が中心であり、10～11月に漁獲量が大きく増加する可能性は少ないと考える。

【分布の特徴】（日本海区水産研究所取りまとめ資料より）

スルメイカの分布状況は各調査点の CPUE（自動イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）で示されるが、本年度の日本海におけるスルメイカの分布状況の概要は以下の通りです。

- 1) 道央～道北海域では、主に平均外套背長 17～18cm の個体が分布し、沿岸域では非常に高い分布密度（CPUE=200 個体前後）の調査点があった。また、積丹半島の南西沖には外套背長 21～22cm の個体の分布も見られた。
- 2) 北陸から道南の沿岸～沖合域では主に平均外套背長 19～20cm の個体が分布し、能登半島の北方で非常に分布密度の高い海域（CPUE=158 個体）が見られた。しかし、東北の沿岸～沖合域にかけては分布密度が低い傾向（CPUE=10 個体前後）にあった。
- 3) 沖合の亜寒帯前線付近では主に平均外套背長 21～22cm の個体が分布し、大和堆付近で分布密度の高い調査点（CPUE=78 個体）が見られた。また、北緯 41～42 度付近の海域では平均外套背長が 23cm を越え、ほかの海域と比較して大型の個体が分布していた。
- 4) 山陰沿岸域では、平均外套背長 17cm 以下の小型の個体が分布していた。

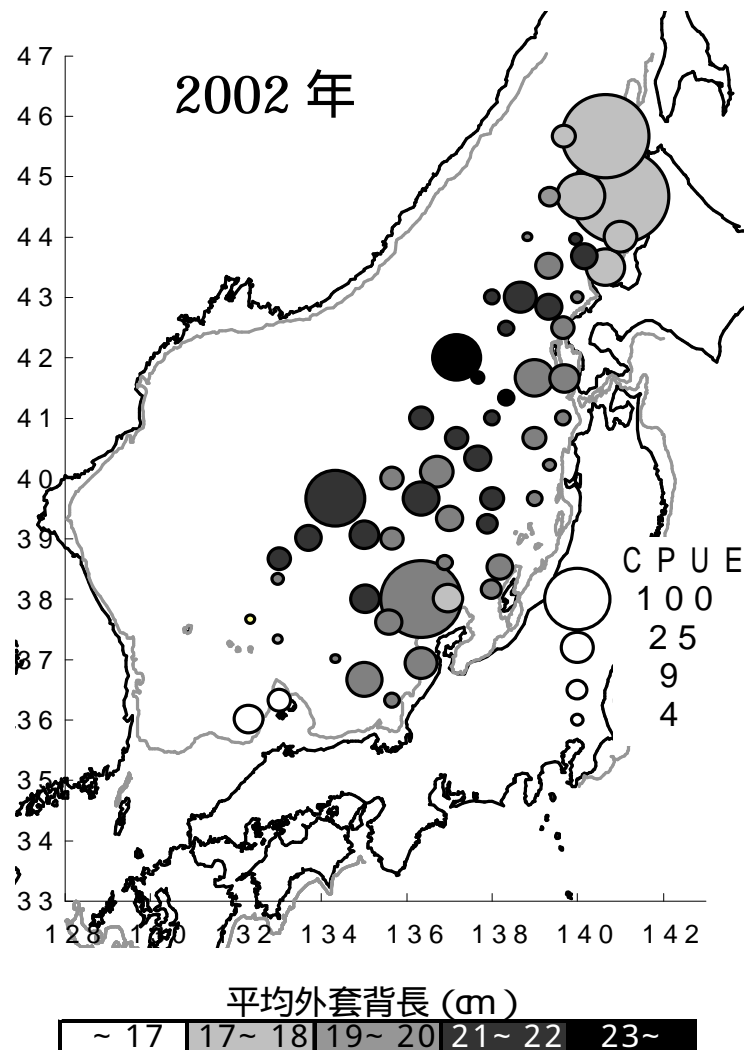


図1 2002年6～7月のスルメイカの分布（日本海区水産研究所取りまとめ資料）

（文責：中央水産試験場資源管理部、TEL:0135-23-8707、FAX:0135-23-8709）